

【伊方町】

校務D X計画

1. F A X ・ 押印の廃止

F A X廃止については、学校と外部事業者間でのやり取り等の課題はあるが、教育委員会や学校事務室が代わりを務める等して、原則廃止していく予定である。

押印廃止については、校長会の議題の一つにもあがり、不要な押印の省略化が促進されている。しかしながら、学校現場における決済行為や用務員等の校務用・学習用端末の配備が不要な職員の出勤簿は、現状、廃止にするのは困難であると考え。新たなツールの活用、押印が不要な書類の精査を行う中で、先進的にペーパーレス化を進めている自治体の状況を参考にしながら対策を行う。

2. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

校務支援システムの機能として名簿情報の取込み機能はあるが、少人数の学校等では手入力で作業をしているところが多い。校務の効率化を図るためにも、学校と連絡を取り合い不必要な手入力を失くすように取り組む。

3. クラウド環境を活用した校務D Xの推進

令和6年度より Google Workspace for Education を活用し始め、学校での情報伝達が効率化した。また、保護者への連絡手段としてクラウドツールを導入しており、出欠席の連絡、学校からの情報発信等のデジタル化により校務D Xの推進に努めている。

4. 次世代の校務システムの導入

現在の校務支援システムはオンプレミス型を導入しているが、次世代では情報管理、情報処理の観点からクラウド型校務支援システムの導入を検討している。クラウド化への更新に向けて必要な環境整備、適切な情報収集が重要になるため、計画的に進めていく。